

# St. Luke's International University Repository

聖路加看護大学年報: 2008年度 (平成20年度)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-01-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/4728">http://hdl.handle.net/10285/4728</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 序 文

聖路加看護大学の2008年度はポスト COE の体制を整える年であり、活発な教育・研究活動が行われた。

2008年度は、学部1年生70名、学士編入12回生20名ならびに大学院博士前期（修士）課程看護学専攻26名（うち社会人入学8名）、ウィメンズヘルス・助産学専攻16名および博士後期課程13名が入学した。今年度は、博士課程の定員増が認可されて3年目となり、博士後期課程の定員がすべての学年で10名となり大学院拡充計画が完成年度を迎えたが、社会人入学生の伸びが少ないためプロジェクトを設置して受け入れについて課題を整理した。博士後期課程では、今年度より看護師資格をもたない者の受け入れを開始し、看護社会学に1名の入学者があった。

保健師助産師看護師学校指定規則の改正が今年度より施行されたが、本学での影響は少なかった。また、2011年度改訂を目標として「カリキュラム2011」プロジェクトを立ち上げて検討を開始した。

2007年10月よりスタートした文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」による「南関東圏における先端的がん専門家の育成」事業は順調に進み、がん看護専門看護師教育の充実と、がん化学療法看護認定看護師教育が実施された。

生涯教育の一環として開講されている科目等履修は、履修生が減少しているため今年度より通常の学部授業に組み入れることとし7名の応募があった。さらに、個別に論文指導を行う「看護研究Ⅱ」を開講し、教養科目の教員が担当することとした。

看護実践開発研究センター（2号館）では、不妊症看護、がん化学療法看護、訪問看護の3つの認定看護師講習と、認定看護管理者ファーストレベル講習が実施された。前者では75名、後者は80名が修了した。

社会貢献として産学協同で始まった「聖路加・テルモ 新健康カレッジ」では全7回の講演とセミナーが市民を対象として実施され好評を得た。COE 拠点プログラムの成果として引き継がれた「ナースクリニック」「聖路加健康ナビスポットるかなび」も地域住民に定着している。中央区が推進する「まちかどグリーンデー」に登録し、毎月10日朝に大学周辺のクリーンアップ活動を本年7月から開始した。

教員の研究活動を支える外部資金の獲得は年々増加しており、文部科学省科学研究費補助金の採択件数は37件、9,535万円（間接経費を含めると1億2,235万円）、厚生労働科学研究費補助金は7件、2,100万円となった。

大学におけるアーカイブ事業の重要性から、4月より「大学史編纂・資料室」を設置し、渡部尚子客員教授が室長として就任された。オーラルヒストリーの聴取や史料の収集、さらに自校教育に資する本学のブックレット作成の準備を開始した。

学生・教職員が互いに関心をもち承認する場として表彰制度を設け、創立記念式において学長賞、グッドティーチャー賞などの授与を行った。

また、同窓生青木康子先生のご寄付により、今年度から「青木奨学金」制度が稼働して3名の助産学専攻生が恩恵を得ることができた。

本学の理念と使命を果たすために、財政基盤の中心である学納金収入の確保と増収策の検討は引き続き検討課題である。経済的要因で本学の学習を断念する志願者への対策も積極的に検討していく必要がある。

2009年3月31日

聖路加看護大学学長 井部俊子